

# かくだ

Kakuda city

市議会だより

第169号

新年特別号 平成25年1月1日



▲角田市子ども議会 (平成24年11月27日 角田市議会議場にて)

新年のごあいさつ



角田市議会議長 佐藤正友

新年あけましておめでとうでございます。謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

昨年は、東日本大震災からの復興元年と位置づけ、角田市では市民皆様の生活を最優先に、道路・下水道等インフラの早期復旧と保育所、幼稚園、小・中学校における放射性物質の除染作業に積極的に取り組んでまいりました。

今年も大震災からの早期復旧、放射能汚染対策、角田市第5次長期総合計画の推進等を引き続き支援してまいります。

議会改革につきましても、角田市議会基本条例を最大限に活用し、議会報告会や一般会議の開催を重ね、多様化する市民ニーズにこたえる政策提言をしてまいります。

また、昨年9月から実施した議会中継のインターネットによるライブ配信を活かし、さらに開かれた、わかりやすい議会を目指してまいりますので、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年一年が市民の皆様にとって、健康で明るい幸せな年になりますように、心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

「角田市子ども議会」を開催

平成24年11月27日、角田市子ども議会が本会議場で開催されました。

この子ども議会は、本年9月から議会ライブ中継をインターネット配信することになったものを、広く市民の皆様を知っていただくための記念事業として、角田市、角田市教育委員会の協力のもと開催したものです。

当日は市内の8小学校から16人が子ども議員として議場に入り、質問に立ちました。子ども議員からは、「安全・安心なまちづくりについて」「角田市のこれからの商業について」などの質問が出されました。

初めて議場に足を踏み入れた子どもたちは、その独特の雰囲気になじみ緊張気味でしたが、一般質問が始まると、16人の「子ども議員」は堂々と登壇し、大人顔負けの質問を市長に投げかけました。これに対し、大友市長が市の現状や取り組みを説明しながら分かりやすく答弁し、子どもたちは、メモを取りながら熱心に耳を傾け、本会議さながらの議事進行となりました。

児童徒の交通事故が起らないよう、通学路等の安全確保に努めます。

次に「歩行者用の道幅を広げること」について、枝野小学校東側の市道と、枝野小学校南側の山元町方面に向かう県道は、蓋付きのコンクリート側溝を入れて道路の幅を広くする工事が、今、計画されています。この工事が完成すれば、側溝の上を歩行することができ、みなさんが通行する歩行者用の道路幅が広くなり、今までよりも安全な登下校ができるようになると思われまます。

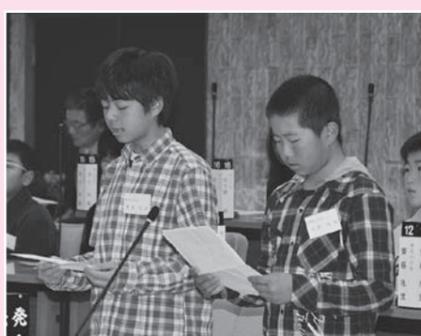
しかし、枝野小学校の南側の区間については、桜井川と民家に挟まれており、現状では歩道を設置する幅がとれない状況です。川幅を狭くすると増水時に氾濫を招く危険性があり、また、民家を動かすには、現在お住まいの方にかなりのご負担をかけることになりまますので、なかなか簡単にはいきません。みなさんが安全に通学できるようにするためには、どんな方法が良いのか、これから宮城県知事とお話し合いをして対策を検討していきたいと思われまます。

3つ目の「登下校時の自動車の速度制限」については、制限速度を上回るスピードで走っているドライバーをよく見かけまます。そこで、交通ルールを守ってもらうため、交通事故を減らすために、活動の中心となる警察署では、交通違反取締りをして交通違反を犯し

一般質問の要旨

1番 枝野小学校

登下校の安全面でも、もっと安心して通学できるようにするための対策や今後の計画について



齋藤拓真 議員、天野佑哉 議員

議員 ぼくたちの通っている学校は、島田地区にある枝野小学校です。現在、小学生は89名です。学校への登下校の安全面について、もっと安心して通学できるようにするといいいのではないかと考えています。

1つ目は、道路や車の速度制限についてです。通学路になっている学校前の南側の道路や東側の道路の交通状況を見てみると、ぼくたちが登校する時間帯の車の交通量は激しく、スピードが結構出ている車が多いように感じられます。道路が狭いために歩行者用

たドライバーに対し反則金や罰金を科し、悪質な場合は刑務所に送るなどの厳しい対応をしています。

しかし、それだけでは交通違反は減りませんので、運転免許を持っている方々等で交通安全協会を組織したり、母親たちによる交通安全母の会を組織して交通安全運動を呼びかけたり、チラシを配布しています。

さらに、市では女性交通指導員2名を配置し、交通事故に遭わないために小学校交通安全教室を開催し指導を行っています。このように警察署だけでなく市民みんなで交通安全に取り組んでいきます。

4つ目の「街灯設置の考え及び整備計画等」について、みなさんが通学路として利用する道路は、比較的道路幅が狭く交通量が少ない道路が多いと思われまますので、そのような道路に設置されることが多い防犯灯について説明をします。

今年3月末現在で、市内の防犯灯は1,321基あります。そのうちLED型は590基で、全体の約45%になってまます。それから、蛍光灯型は581基で約44%。そして水銀灯型は150基で約11%になってまます。今後は、すべての防犯灯をLED型に交換していくことになっています。

防犯灯を設置する場合ですが、市が地域からの要望を受けて、設置場所を調査した上で必要性について決定し、

の白線内の幅も非常に狭く、車がすれ違ふときなどは車との距離が近くなり、とても危ないと感じてまます。学校まで歩いて行く子どもたちにとって、いつも車の危険にさらされてまます状態です。そうした状況の中、安全面を考えて朝は車で登校させてまます家庭が増えているようにも思われまます。

もし、道路が広くなり歩行者の白線内の幅も広くなれば、もっと安心して歩いて通学できるようにするのではないかと考えてまます。自分たちの通学路を朝も帰りももっと安心して歩いていくことに活用していければ、健康な体づくりにもつながっていくものと思われまます。

2つ目は、ぼくたちはもうすぐ金津中学校に通うようになりまます。中学校へは枝野学区と藤尾学区とから通学するようになりまます。中学生になると部活等で帰りの時間が遅くなり、暗くなってからの下校が多くなると思われまます。ぼくの兄は現在2年生ですが、街灯があれば帰り道がはつきり見えてもっと安心して自転車通学できるのではないか、という話をしていたのを聞きました。現在、枝野学区と金津中学校との間の道路には街灯がほとんどありません。ぼくたちがより安全に安心して通学できることを考慮していただき、ぜひ街灯の設置をお願いしたいと考えてまます。不審者対策にもつながるものと思われまます。

偏りがないう調整してまます。現在、約70か所が計画されてまます。設置については、限られた予算の範囲内、1年間にLED防犯灯を約30基設置する予定にしてまます。今年度は、特にみやぎ環境税補助事業というのがありまして、これを活用して、既存の蛍光灯型防犯灯95基をLED防犯灯に交換する予定になってまます。

要望されるとおりに防犯灯を設置するとすると設置料と維持費の電気料が大変かかるといことになりまます。具体的には、今年度の防犯灯の設置や修繕、電気料に支払うお金は約860万円かかってまます。これは税金から出てまます。

では、どうすればいいんだということになるわけです。やはりこれは、自分の身は自分で守るのが大切で、自分で、自転車は安全運転し、スピードを控える。夕暮れ時には早めにライトを点灯し、明るさが足りないときは補助灯として懐中電灯を使用する。徒歩の場合は、懐中電灯を使用して、反射材が付いた上着の着用などの取り組みをしてはどうかと思われまます。また、早めの帰宅、あるいは集団登下校、送り迎え、さらに懐中電灯や防犯ブザーの利用なども考えてはどうかと思われまます。登下校の方法に工夫をすることで、安全性が向上すると思われまますので、ぜひご検討ください。

以上、通学路の安全面に関する二つの点についての考えをお話いたしました。

もっと安心して通学できるようにするための対策についてお聞きしたいです。特に、歩行者用の道幅を広げることや登下校時の車の速度制限、また街灯設置の点についてどのように考えていらっしやるのか、あるいはどのように整備等の計画がなされているのか、教えてください。

市長 はじめに「安心して通学できるようにするための対策」については、通学路の安全対策のために、これまで市内の各小学校の通学路について、角田市の土木課、教育委員会、宮城県の土木事務所、そして角田警察署などの関係機関が合同で通学路の点検を行い、危険箇所の対策をどのようにするか、保護者や小学校の先生からの意見を参考にしながら、対策を話し合っています。話し合いの結果については、それぞれの関係機関から国へ報告がなされ、通学路の安全対策を施行するための予算の確保措置がされる予定になってまます。

ただし、通学路などの改善には時間がかかる場合もありますので、市内各小学校においては、地域のみならずによる主要通学箇所での見守りボランティア活動や交通安全指導隊による交通安全指導等を定期的に実施していただきたいと思われまます。市としても、児

2番 東根小学校

安全・安心なまちづくりについて



永井珠李 議員、安齋杏果 議員

議員 私たちの生活する東根小学校周辺は、山と川に囲まれた、田園風景の広がる緑豊かな地域です。しかし、夕方になると人通りの少ない道も多く、県道から外れた場所は、街灯も少なく木々がうっそうと生い茂っています。私たちは、夏休みに地域の安全マップづくりに取り組みましたが、そのときにも、死角となりそうな場所や、交通量のわりに道幅が狭く、歩道のない場所、柵のない堤など、身の回りに危険な場所がたくさんあることを知りました。そこで、角田市を安全・安心なまちにするために、次の3点について質問したいと思われまます。

1点目は、街灯のない場所への街灯

設置については、日が短い秋から冬にかけては、下校の時間にはもう外が暗く、人がいるかいないかも分かりません。家も少ないので、明かりがあまりなく、道がとても暗いです。最近では、角田市周辺の不審者情報も増えてきており、小・中学生が暗い道を下校するのは、とても不安です。そこで、街灯のない場所には必ず街灯を設置し、いつでも明るい状態の安心して通ることのできる道にしてほしいと思います。環境への配慮から、LEDや太陽電池を利用した街灯にすることも大切だと思います。

2点目は、交通量の多い通学路の安全対策についてです。東根小学校のある平貫地区は、大変、道が細く、曲がりくねっています。槻木や巨理方向へ抜ける車の大半は、県道や農免道を通りますが、一部の車や地域の住民は、学校前の細い道を通ります。また、坂津田地区は、採石場の関係で多くのダンプトラックが走っています。しかし、ここにも歩道やガードレールがほとんどなく、自転車や通学する小・中学生は、毎日、すれ違う車にとても怖い思いをしながら通行しています。特に、阿武隈川沿いの県道・丸森柴田線周辺の地区は、昨年まで自転車通学でしたが、あまりにも危険なため、今年からバス通学に変更になりました。バスで登下校できることは大変ありがたいのですが、日常生活での通行や、中学生の登下校が危険であることには変

わりありません。そこで、交通量が多く、道幅の狭い危険な通学路は、道幅を広げて歩道やガードレールを設置してほしいと思います。路肩を作り直したり路側帯の白線をずらして歩行者の通る場所を確保するだけでも、かなり安全性が高まるのではないのでしょうか。

3点目は、柵のない堤への安全対策についてです。東根地区は、山間部に農業用水の堤が多くありますが、そのほとんどは安全のための柵やフェンスがなく、また、あったとしても手すり程度のものが多く、誰でも水際まで近づける状態です。学校や家庭では、日ごろから堤に近づかないよう教えられていますし、堤の近くで遊んでいる子供がいたら地域の方が注意をしてくださるので、幸い事故はありませんが、これから地域が目が届くという保証はありません。また、子どもだけでなくお年寄りなどにとっても危険な場所になっているのではないかと思います。

私たちが小学生も、交通事故や水難にあわないよう、決まりを守り安全に気をつけて生活していきたいと思えます。市長 まず、「街灯の設置」については、何十基も設置するわけにはいかないという事情はお分かりだと思います。特

大きな店ができれば、買い物できて便利だけでなく、阿武隈急行を利用する人が増えるし、若者の働き場所やお年寄りの交流の場所にもなると思います。また、2階建てや3階建ての高い建物にすれば、大水の時、そこに避難することもできると思います。しかし、新しく大きな店ができる、便利なことだけでなく、困ることも出てくるでしょう。田んぼや畑がつぶされて、角田市の代表的な産業である農業がなくなってしまうかもしれません。また、買い物に来る車が多くなり、交通事故が増えてしまうかもしれません。それに、子供だけで買い物に行くと危ない目にあったり、昔からある店が売れなくなったりするということも考えなければならぬと思います。

このようなことを考えた時、角田市のこれからの商業はどうなるのか知りたいと思います。市長 確かに近くに店があれば地域の人は便利ですが、赤字になると考えると、店を出す人が出てくるのは難しいと思います。店が多く出されている場所を見ても、住宅が多いところや人や車の交通量が多いところになっています。岡駅前もまだ住宅が建つ土地がたくさんあります。角田市では、さらに、住宅が建つように、「いらっ

にここが大事だということがありましたら、優先的に設置していきたいと思えますので、こういった場所に防犯灯が必要なのか教えてください。

2つ目の「交通量の多い通学路の安全対策」について、東根地区は、東日本大震災で痛んだ巨理町や山元町の堤防復旧工事などに使う土砂を運ぶため、大型ダンプの交通量が非常に多くなっており、みなさんが通学する道路でも交通量が増えています。歩道がない狭い道路もあり、車や人のすれ違いが、危険な場所もあると思います。現在、平貫地区においては、東根小学校前の道路の改良工事を計画しています。約1キロメートルの区間はカーブを解消し、5メートルの車道と2.5メートルの歩道をつくる計画で、来年度から整備を始めることにしています。

また、巨理町に行く県道は、東根郵便局を曲がった付近に、県が歩道を設置することになっていきますし、市道と県道の交差点部分の改修を行う予定です。それから、坂津田地区の阿武隈川沿いの県道は、国が管理する阿武隈川の堤防上を走る道路ということで、堤防上にガードレール等を設置することは認められていません。県では、堤防を県道として使っている部分については、坂津田地区の信号のある交差点から南へ向かう坂津田の腰休という地区までの区間、約1.7キロメートルについて、山の方に新しい道路を作る計画です。さらに東根地区内の道路では、大

型ダンプの走行で傷んだ道路を舗装していくことも検討しています。

3つ目の「柵のない堤への安全対策」について、住宅地の近くにある農業用水の堤については、水難事故を防止するための安全対策として、20年ほど前からネットフェンスを設置して、注意看板を立てて安全対策を順次行っています。また、堤沿いの道路にはガードレールを設置して、安全対策を行ってきました。

議員からの「通学路などの近くにあり堤」については、安全対策の面からも必要なことですので、現地をよく確認して、必要なところにはネットフェンスなどの安全施設を設置するなど、前向きに対応していきます。

最後に、学校や家庭でも教えられているように堤は大変危険ですので、絶対に近づかないようお願いいたします。議員 只今の答弁では、優先順位で街灯を設置するとおっしゃいましたが、どのくらいの期間で街灯の設置が終わるのでしょうか。詳しくお話ししてください。

防災安全課長 現在、要望があるのは約70基です。その分については来年、再来年くらいで終わると思いますが、さらに要望があがってきますから、それを踏まえて順次つけていくという形になります。

設置場所は、どうしても暗いところや防犯上の面から、地元の方と話し合いをして決めていきます。



芳賀桃花 議員、平山時生 議員

3番 北郷小学校  
角田市のこれからの商業について

議員 僕たちが住んでいる北郷地区には、何でも売っているような大きな店がありません。買い物をする時には、角田市の中心部やほかの市、町に行っています。ちょっととした買い物でも、車で行かなければならないので、とても不便です。特に、車の運転ができないお年寄りや子供は、一人で行くことができないので、大きな問題です。そこで、角田市の中心部だけではなく、ほかの地区にも大きな店をつくらせてほしいと思います。僕たちは阿武隈急行の岡駅など、駅前につくってはどうかと考えましたが、いかがでしょうか。



佐藤 優 議員、佐々木かれん 議員

4番 西根小学校  
西根地区の防災と通学路の安全確保について

議員 学校の総合的な学習の時間で角田市の防災について学習を行いました。地震や豪雨の時にどのような行動をしたら良いかを授業で学び、西根地区の豪雨の被害についてアンケート調査をしました。そこで、地震の時は、たいおうをしっかり考えること。たいおうの「た」は、倒れてこない場所。たいおうの「い」は、移動してこない場所。たいおうの「お」は、落ちてこない場所。たいおうの「う」は、うまく命を守る場所をとっさの判断で見つけて逃げること。そして正確な情報を得て避難することを学びました。その後、グループに分かれて西根地区のことについて調べていきました。地震グループでは

トによって6年生のみんなの家にアンケートをとり、崩れやすい場所の把握や下校途中に地震が起きた場合、学校に向かうか家に戻るかの分岐点をそれぞれの家で確認しました。

私は、豪雨についてアンケートをとり、次のようなことが分かりました。西根地区では、これまでの大雨により被害にあった地区が、高倉川沿いに被害があったことが分かりました。特に、2区にある高蔵寺近くの場所が危険であると知りました。このような豪雨被害が起きないように角田市はどのような対策をしているのでしょうか。川の改修工事の予定はあるのでしょうか。災害発生時の西根地区の避難対策についても教えてください。

次に、西根小学校の通学路について質問します。西根小学校の子供たちは、スクールバス、自転車、徒歩で通学しています。その通学路を調べてみるととても狭いことに気づきました。歩行者と自転車と一緒に歩くと、歩行者、自転車と自動車の距離がとて近くなってしまふところもあります。お母さん方からも、危ないという声がたくさん聞かれます。

5番 横倉小学校 防災について 渡邊泰生 議員、山内 楓 議員

議員 東日本大地震から、一年半がたちました。あの3月11日の大地震では、本当に怖い思いをしました。地震の恐怖、そして、電気や水が止まり、食べ物も少なく、不自由な思いをした日々。家族といっしょのあたりまえの生活がどんなに幸せであったかに気づいた日々でもありました。

先曰、わたしの学校の体育館前に防災倉庫が設置されました。中にはどんな

めどんな対策をとっているのでしょうか。西根地区の通学路の安全を図る対策はあるのでしょうか。市の方針を教えてください。

市長 はじめに、「豪雨被害が起きないような対策」については、豪雨被害をはじめ、地震や強風、大雪などの被害は自然が起すもので、被害をゼロにする対策はたいへん難しいことです。しかし角田市では、少しでも災害からの被害を減らす様々な対策を行っています。

まず、自分の住んでいる地域で豪雨による被害が発生した場合、浸水する範囲がどれくらいになるのか、こういったことを示した地図があります。これが「角田市洪水ハザードマップ」です。このマップは、既にみなさんのお宅に配布しています。学校にも自治センターにもあります。このハザードマップを参考に事前に非常時の持ち出し品の準備をしたり、早めの避難ができたり、たいへん役に立つものだと思います。

また、毎年7月には「水防訓練」を行っています。これは、住民の生命、身体、財産を守るために活動をしている消防団員が水防団員を兼ねており、豪雨などによる浸水被害などが発生した場合に、被害を少なくする作業「水防工法」を学ぶ訓練です。川の増水により堤防に生ずる被害を少なくし、住宅に水が浸水するのを防ぐ対策ができるように毎年訓練を行い、水防団員の方々は、災害の発生に備えている訳です。

2つ目の「川の改修工事」について、な物が入っているのか、先生に聞いてみました。発電機や仮設トイレ等が入っていることが分かりました。さらにこれから、防災倉庫には、どんな物が入るのですか。このような倉庫は、角田市内にどのくらい作られたのでしょうか。

また、実際に地震が起こった場合、角田市としては食料や水、住宅など、具体的にどのように対応する計画・準備をしているのでしょうか。次に、角田市は阿武隈川の水害も心配です。もし川が氾濫したら、避難する高台があるかと思えます。どのように対応する計画・準備をしているのでしょうか。

わたしは、大きな災害があったらどうするか時々家族で話をします。きっと、各家庭でも防災について話をしていると思いますが、地域ではどうでしょうか。わたしは地域のみんなで防災について話し合う場があれば、もっといいと思います。地域みんなが助け合っていて、被害を減らしたり命を守ったりすることができるように、角田市として地域の取り組みについても考えてください。

市長 はじめに「防災倉庫」について、角田市では、災害等が発生した場合に主な避難場所となることが予想される小・中学校及び自治センターに、平成24年度と平成25年度の2年間で防災倉庫を19か所設置する計画をしています。平成24年度は市内小・中学校のうち7校、各地区の自治センター4か所に設置しました。横倉小学校も今年

高倉川は宮城県が管理していますが、最近、旧西根中学校付近から川幅を広げ、堤防をつくるなどの改修工事が下流の江尻まで行われました。この改修工事により、氾濫などによる被害は、今はほとんど発生しなくなりました。

3つ目の「災害発生時の西根地区の避難対策」については、現在、市内には、49か所の指定避難場所があり、そのうち西根地区には4か所あります。災害が発生し、避難が必要ときは角田市で指定する避難場所へ避難することになります。また、住んでいる地域に自主防災組織がある場合は、独自に避難場所を指定しているときもあり、そこから避難することもあります。大きな災害が起きた場合は、角田市からは「避難準備」「避難勧告」、そして「避難指示」。こういった避難に関する連絡が出来ます。この場合、かくだ安全・安心メールや、防災行政無線、角田市緊急連絡用電話兼用のFAX、さらに広報車、こういったもので呼びかけなどをします。

また、市では避難をしてきた方々のために食料、水、毛布などの必要な物資を蓄える備蓄をしています。電気の早期復旧のために東北電力株式会社と協力体制をとっています。また、電話が使えない場合に備えて、衛星携帯電話の導入や携帯型の無線機の台数を増やすことについて検討しています。

主な避難場所となることが予想される小中学校、自治センターには、平成24年度と25年度の2年間に防災倉庫を設置することになっています。防災倉庫には発電機や投光器などの災害対策のために食料、水、毛布などの必要な物資を蓄える備蓄をしています。電気の早期復旧のために東北電力株式会社と協力体制をとっています。また、電話が使えない場合に備えて、衛星携帯電話の導入や携帯型の無線機の台数を増やすことについて検討しています。

2つ目「川が氾濫した場合の計画・準備」について、市では川の氾濫などの水害が起こったときには、高い所にある避難場所を水害時の避難場所として指定しており、横倉地区では、横倉小学校、横倉自治センター、横倉児童館が指定されています。水害が起り、避難が必要な場合は、角田市から「避難準備」「避難指示」等が発令されますので、早めに避難してください。

しかし、市内の地域はほとんどが平坦地で高い所がありません。現状では台山公園などの広くて高い指定避難場所に避難していただき、その後は市や消防団などの指示を待って行動してもらうしかない状況です。水害は地震の被害とは違って、事前にある程度の予測ができます。市としても少しでも早く対策を決定したいと考えています。3つ目の「地域みんなが助け合っていて、被害を減らしたり命を守ったりすることができないか」についてですが、市では、地域みんなが助け合い、災

資材、機材を配備することとしており、既に西根小学校には配備が終わっています。

次に、西根小学校の通学路に関する質問にお答えします。1つ目は「白線の幅を広げてほしい」についてです。西根小学校付近では、国道113号に歩道が設けられていますが、ほとんどの道路では限られた道幅を人と車が一緒に使っている状況です。車道と歩道が分離して整備されていけば、安心して通学することができると思います。しかし、現在の道路は、車の走行幅を確保することも必要で、新たに歩道を整備するだけの土地の確保ができないために、整備がなかなか進まない状況です。今年、宮城県の土木事務所をはじめ警察や学校、市などの関係機関で通学路の危険箇所を点検しました。狭くて危険な場所については、今後どうすれば通学路の安全を確保できるのか、よく現地を調査して、みんなで考えて対応していくつもりですので、もうしばらく注意して通学されるようお願いいたします。

2つ目は「交通事故を起こさないための対策」についてですが、先ほどお答えした通りですので、今後とも、警察署、交通安全関係団体、学校と連携しながら、交通事故が無いような町にしていきたいと思っています。最後の「通学路の安全を図る対策」については、これも、先ほどお答えした通りですので、様々な団体と連携しながら通学路の安全を確保していきたいと思っています。

害から身を守る地域の組織として、先ほども言いましたが自主防災組織の設立を促進しています。自主防災組織は、まさに地域全体で防災を考える組織で、たいへん重要な組織ですので、もう少し勉強する機会があればいいと思っています。

6番 藤尾小学校 安心して暮らせる まげへんじいさん 山中謙市 議員、齋藤朱里 議員

議員 私の住む藤尾地区は街灯が少なく、夕方になると真っ暗になってしまふため、交通事故などの危険にさらされます。自転車で乗っていると、道路にできた穴や段差にはまってバランスを崩し、けがをする可能性もあります。中学生になると、部活動などで暗くなつてから帰宅することも多くなり

ます。大きな事故が起きてからでは手遅れです。より安全な通学路の確保のために、道路の整備と街灯の設置を希望します。そのための調査もしてください。

2つ目の質問に移ります。福島原発事故から1年半が過ぎました。角田市の小学校では除染を行っている小学校があると聞いています。私の通う藤尾小学校は、まだ、除染が行われていません。除染の計画はどうなっているのでしょうか。また、どのような方法で除染を行うのか教えてください。今後、もっと安心して角田市に住めるように、子どもたちが集まる公園や施設周辺の除染を進めた方がいいと思います。

市長 はじめに「安全な通学路の確保のために、道路の整備と街灯の設置」についてですが、東日本大震災により、市内の道路被害は226か所発生しています。その被害額は10億円に上っています。大きな事故が起きるような場所は優先して復旧工事を進めています。が、被害箇所が多く、現在もなお、アスファルト舗装の打ち替えを行っているところや、砂利道のままになっているところもあり、市の担当課をはじめ、受注した土木業者も一生懸命工事を進めています。

なお、街灯の設置については、先ほどもお答えしましたが、1年間に設置できる防犯灯の数については限りがあるという状況です。一方で、必要性の高い箇所から設置したいと思いますが、続いて「除染関係」についてですが、藤尾小学校では、小学生のための放射線副読本「放射線について考えてみよう」という学習を通じて、放射線に関する基礎知識があると伺っていますので、それを踏まえたうえでお答えします。

市長 市では、いち早く、角田市の顔となる角田駅前を整備して、活気と賑わいのある空間をつくろうと頑張った訳ですが、なかなかその後、お店が張り付かない状況です。一番の要因としては、角田駅前が、朝夕を除けば人通りや車の交通量が少ないことがあげられるのではないかと思います。そこで、市では角田駅周辺に人を呼び込む取り組みを行っています。角田駅を会場にした「ずんだまつり」や「菜の花ウォーク」「大人っ子まつり」などの各種イベントの開催や、来年度の仙台・宮城デスティネーションキャンペーンという大きな観光事業があります。これについては、角田駅を発着とした旅行ツアーなどを企画し、さらに阿武隈急行線の利用促進を図りながら駅前賑わいをつくっていきたくと考えています。角田駅は角田市の顔といえる場所なので、ぜひ角田市の人ももちろん、ほかの市町村の人にもお店を出していただき、活気あふれるにぎやかな駅前通りになればと考えています。それから、大型施設や特産品を取り扱う店が足りないということですが、そのとおりだと思います。こういうお店があれば、非常に便利ですが、商売というのなかなか難しいですね。現在、地元で採れたおいしい農産物を販売する直売所が市内には約30か所あり、地産地消に努めています。ただし、もう少しまとまった施設になればいいと思っています。角田山元トンネルが開通して相応な交通量になっている総合体育館の周辺に道の駅を整備しようと考えています。

りがあるという状況ですので、必要性の高い箇所から設置したいと思いますが、続いて「除染関係」についてですが、藤尾小学校では、小学生のための放射線副読本「放射線について考えてみよう」という学習を通じて、放射線に関する基礎知識があると伺っていますので、それを踏まえたうえでお答えします。

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、角田市では国から平成23年12月28日付けで「汚染状況重点調査地域」という地域指定を受けました。その後、国の承認を受け「角田市除染実施計画」により、放射性物質からの影響を減らすため除染作業を進めているところですが、この除染の実施計画では、自然から受ける放射線とは別に、事故のために受ける放射線の量が1年間で1ミリシーベルト以下、1時間あたり0.23マイクロシーベルト以下、1時間あたり0.23マイクロシーベルト未満になることを目指しており、3か年の実施計画を定めています。

角田市では、今年度の除染作業は幼稚園、保育所、小・中学校などの子どもが生活する施設を最優先に行っています。これらの施設の放射線量が「1時間あたり0.23マイクロシーベルト」という国が定めた除染の実施基準に満たなくても、市独自の判断で全ての施設を除染作業の対象にしています。

8番 桜小学校

角田市の交通と美化・安全な暮らしについて



金子知諭 議員、佐久間 梓 議員

議員 去年3月11日に東日本大震災という大きな地震がありました。地震の影響で市内の道にも段差ができ、どこぼこしている所がいくつも見られます。大きな段差がある所は工事をしていただき、修理されましたが、まだ、直っていない所も残っています。また、砂利道などもあり、小さい子やお年寄りが通ったときに、転んでけがをする恐れがあるかもしれません。不安定な道を通って困っている方々のためにも、なるべく早く工事を進めてほしいのですが、角田市では、どんな対策を考えておられるのか、お聞かせください。2つ目は、角田市の美化・安心なくらしについて質問します。角田市の公園で、よくゴミやペットボトルなどがポイ捨てされ、落ちてい

す。そして、ことしの4月に測定しました放射線量の高い順に順次、除染作業を実施している状況です。藤尾小学校は、12月3日から1月31日までに除染作業を実施する予定です。

次に「除染作業はどのように行うか」ということですが、グラウンド、校舎の周辺、校舎南の山の斜面など、132か所で放射線量の測定を実施しました。線量の高かった箇所は1センチから5センチメートルほど土を削り取ります。そしてグラウンドは平らにならした後に新しい土を5センチメートル入れることにしています。これらの作業で、グラウンドの地上50センチメートルの高さでの放射線量の平均の値は、この除染をする前0.25マイクロシーベルトありましたが、これが0.15マイクロシーベルト以下まで下がる予定です。削り取った土の処理は、屋内運動場の南西側に穴を掘って、水を通さないシートを敷いてから、この土を埋めて、その上に30センチメートル以上、土をかぶせることで安全に保管することにしています。

以上、ご説明した藤尾小学校の除染にかかる費用は900万円を超えると、このお金は国からの補助金で行います。

来年度の除染作業は、子どもが集まる公園や公共施設などを優先的に進めていくことにしています。

のを見かけます。後から公園に来て、公園を使う人のことを考えると、それはとても良くないことだと思います。それに環境にも影響を与えていると思います。この対策案として、公園にゴミ箱を設置したり、ポランテアで市内のゴミを拾ったりするといいのではと考えました。このゴミ問題の現状に対して、角田市としては、何か対策案をお考えなのかお聞かせください。

市長 はじめに、「道路の復旧工事」については、昨年の東日本大震災の発生で、市内の市道の被害226か所、約10億円の被害が発生しました。順次、この復旧工事を進めています。もう1、2年必要かと思っています。実はこの道路、直接の被害もありますが、中身としては下水道の工事が大変大きく、その下水道の被害に伴って、道路の被害も発生しているという状況です。市内の公共下水道は123キロメートルに渡って、下水道管が配置されています。その約16パーセントに当たる約20キロメートルの下水道管が地震によって曲がってしまっていて、汚水がよく流れなくなりました。この下水道の復旧には、約30億円が必要となる見込みで、平成23年度から25年度までの3年間で復旧する予定です。桜小学校のある桜地区の下水道復旧工事はこれから本番ですので、道路が元どおりになるのは来年の今頃になります。次に「ゴミ問題の現状と対策」についてですが、各家庭や会社から出るごみは、3つのR「スリーアール」という言葉があります。一つのRはリデュース。これは「元から減らす」と

7番 角田小学校

角田の町づくりの構想について



玉手優希 議員、瀬戸ひかり 議員

議員 角田駅の中はおしゃれでいいと思いますが、一歩外に出ると、駅前通りには目立った店もなく、寂しいといつも感じています。これでは、他の市町村から来た人たちに、角田で何かをしようという気が起きないと思います。また、大型施設や特産品を扱う店がたりません。角田には、おいしい米や野菜などがあるのだから、それを売るためのお店をつくり、そこをみんなが楽しめるような施設と一緒にすれば、人が集まり、活気ある町になると思います。特産品を扱う店では、輸入にたよらず、地産地消ということを第一に考え、昨年の東日本大震災の風評被害に負けず、安心・安全に提供できるようにするとよいと思います。

ということです。ゴミを元から減らす。それから、リユース。これは「繰り返し使う」ということです。それから、リサイクル。「資源として再利用する」ということです。このリデュース、リユース、リサイクル、3つのR、3Rの取り組みを行うことで、ゴミを減らすことができると思っています。「 unnecessaryものは買わない、もらわない、使わない、作らない」というようないう気持ちで、ごみを減らしていく運動を展開していきたいと思っています。それから「ごみのポイ捨て」については、市では、ごみのポイ捨てを防ぐために、道路や公園などにポイ捨て禁止看板を取り付けており、その不法投棄に関するパトロールも行っています。それでもポイ捨てが止まっています。それについては、地区の人たちや会社の人たちが、ごみ拾いなどの清掃活動を自主的に行っているほかに、毎年、春と秋の年2回「市内一斉クリーン作戦」を行っており、多くの市民の方に参加をいただいています。それから、公園内にゴミ箱を設置してはどうかというご提案ですが、以前、市内の公園にはゴミ箱が設置されていました。しかし、このゴミ箱にいろいろな方がゴミを捨てて来たため、今のような分別ができる状態ではなく、あと始末が大変な状況になってしまったために撤去しました。やはり、自分のゴミは自分で片付ける。そういうことが基本に無ければ、町はきれいな状態に心がけていただきたいと思います。

市民に開かれた  
議会を目指して

# 第7回議会報告会

を開催します。

角田市議会では、市民の皆様のご意見やご提言を直接お伺いし、議会審議への活用や議会運営の改善を図るため、下記の日程で議会報告会を開催します。

今回は、「第6回議会報告会の意見・要望に対する検討結果について」、「子ども議会の結果について」を報告しながら、市民の皆様と意見交換を行います。

なお、議会報告会は、これまで年2回開催してきましたが、市民の皆様から頂いた「議会活動や市政に対する意見、要望など」をさらに深く掘り下げて調査・研究し、議会からの政策提言につなげていきたいと考えています。

したがって、これまでの年2回開催を1回とし、調査・研究に時間を費やすことで、議会報告会に参加した市民の皆様に対しフィードバックしていきたいと思っております。

今回の議会報告会では、特に「除融雪に関すること」「水道ビジョンに関すること」「ごみ有料化に伴う対応に関すること」等について調査・研究した内容を報告したいと考えておりますので、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

開催日時	会場	対象地区	担当班
1月21日(月) 午後6時30分	西根自治センター	西根地区	1班
1月21日(月) 午後6時30分	桜自治センター	桜地区	3班
1月21日(月) 午後7時	藤尾自治センター	藤尾地区	2班
1月22日(火) 午後6時30分	北郷自治センター	北郷地区	3班
1月22日(火) 午後7時	小田自治センター	小田地区	2班
1月23日(水) 午後6時30分	枝野自治センター	枝野地区	1班
1月23日(水) 午後6時30分	角田自治センター	角田地区(東町、本町、東仲町、西仲町、天神町)	3班 (本田、渡邊、柄目)
	西田町公民館	角田地区(西田町、東田町、横田町)	3班 (高橋、日下、今野)
1月23日(水) 午後7時	野田生活センター	角田地区(野田)	2班
1月24日(木) 午後6時30分	横倉自治センター	横倉地区	1班
1月24日(木) 午後6時30分	高畑南公民館	角田地区(新中島南、新中島北、中島下、高畑南)	3班
1月24日(木) 午後7時	東根自治センター	東根地区	2班
1月25日(金) 午後7時	南町公民館	角田地区(西南町、東南町、立町、中島、北町、谷地町)	2班
1月29日(火) 午後6時30分	新丁三区区民会館	角田地区(新丁、新丁東、新丁西、寺前)	1班
1月30日(水) 午後6時30分	農村婦人の家	角田地区(老ヶ崎、豊室、古豊室)	1班

※どちらの会場でも参加できます。ご都合のよい会場へおいでください。

## 班 構 成

1 班	2 班	3 班
小 湊 毅	八 島 定 雄	今 野 林 一 郎
◎ 湯 村 勇	小 島 正	日 下 七 郎
相 澤 邦 戸	佐 藤 正 友	高 橋 力 雄
齋 藤 正 一 郎	◎ 馬 場 道 晴	◎ 渡 邊 誠
伊 藤 善 昭	玉 手 安 博	本 田 敏 昭
谷 津 陸 夫	細 川 健 也	柄 目 孝 治

◎班長

## 編集後記

新年、あけましておめでとうございます。

この度の市議会だよりは、過日開催をいたしました「子ども議会」及び今後予定されております「第7回議会報告会」をメインに掲載いたしました。

「子ども議会」においては、子ども議員の皆様による鋭い質問に驚愕させられるとともに、通学時の安全・安心への関心の強さを伺わせる内容でありました。

また、開かれた議会を目指した取り組みの一環として、引き続き「議会報告会」を開催いたします。前回、市民の皆様より出されましたご意見やご要望に対し、1年間の各常任委員会での調査・研究及び議会での提言など一定の成果等について、ご報告を行いたいと考えております。

今後とも「市民の皆様とともに歩む議会」を目指し精進してまいりますので、皆様のご理解とご協力を切にお願ひ申し上げます。

議会だより編集会議